

公認会計士論文式試験

経営学部 4 回生

難関試験挑戦の動機

大学受験で悔しい経験をしたことをきっかけに、大学生の間に自分を大きく成長させる挑戦をしたいと考えていました。簿記を学ぶ中で公認会計士という職業を知り、合格者の話を聞く過程で、専門性を高めながら継続的に成長できる点に魅力を感じました。会計士はクライアントからの信頼に応えるために知識だけでなく人間力も磨き続ける必要があり、日々の経験を通して成長を実感できる職業だと考えています。また、上司や同期との関わりの中で様々な気づきを得て、自らの価値観を広げられる環境がある点にも惹かれました。自分を大きく成長させたいという思いを実現できる職業として、公認会計士を志望しました。

難関試験合格のために取り組んだ努力や工夫

私は大学 1 回生の 12 月頃から学内講座※1 を通して公認会計士の勉強を始めました。始めた当初は試験に対する認識が甘く、大学の授業やアルバイトとの両立が難しく、十分に勉強時間を確保できていませんでした。しかし、2 度目の短答式試験不合格を機に心を入れ替え、生活習慣と勉強方法を大きく見直しました。朝起きることが苦手でしたが、予備校に通う時間を昼から朝に変更し、わからない点はすぐに講師に相談するなど、主体的に学習する姿勢を意識しました。短答式試験合格後は、論文式試験突破に向けてさらにギアを上げ、友人と切磋琢磨しながら朝から晩まで勉強に取り組みました。私が論文式試験を 1 度で突破できた理由は 2 つあると考えています。1 つ目は、自分に合った勉強方法を確立できたことです。論証は全文暗記ではなくキーワードをつなげて理解する方法を取り、計算は短答式受験期から培った力を維持することに注力しました。2 つ目は、勉強意識の高い友人の存在です。日々勉強方法や進捗を共有することで、学習の指針を明確にすることができました。

難関試験への挑戦により獲得した力とその活かし方

この経験を通して、継続する力をさらに培うことができたと感じています。特に、思うように物事が進まない時に、自身の計画や勉強方法を見直し、軌道修正する力は、日々の勉強を重ねる中で身につきました。勉強と実務では求められるものが異なる部分も多いと思いますが、継続する力や軌道修正力は、会計士として自己研鑽を続ける上でも、クライアントと向き合う上でも必要不可欠な力だと考えています。クライアントの意図や背景を柔軟に汲み取りながら、自身の考えや行動を適切に修正し、価値を提供できる会計士を目指していきたいです。

難関試験を目指す学生へのアドバイス

在学中に公認会計士試験の合格を目指すのであれば、学内講座※1 が始まる段階から勉強習慣を身につけることが重要だと感じています。私は4回生での合格となりましたが、3回生までに合格する人は、勉強当初から自身の進捗状況と、今後やるべきことを明確に把握し、そのまま迷わず突き進んでいる印象がありました。私自身も試験勉強を通して、最終的な合格という大きな目標から、半年後、1か月、1週間、1日といったように目標を細かく設定し、それを自分の進むべき道程として可視化することの大切さを学びました。これは勉強に向き合う姿勢として非常に重要だと思います。次に勉強内容についてですが、自分に合った勉強方法を見つけることが不可欠です。講師や友人の勉強法を試してみることは有効ですが、そのまま真似するのではなく、自分に合う形に調整することが大切です。短答式試験では問題演習を中心に行い、理解が不十分な部分をテキストに戻って確認する方法が合っていました。一方、論文式試験では論証を丸暗記するのではなく、キーワードを覚えて文章を組み立てる方法を採用しました。文章を書くことが苦手であれば暗記量を抑えられ、効率的に学習を進められる方法だと思います。

※1 学内スタート講座